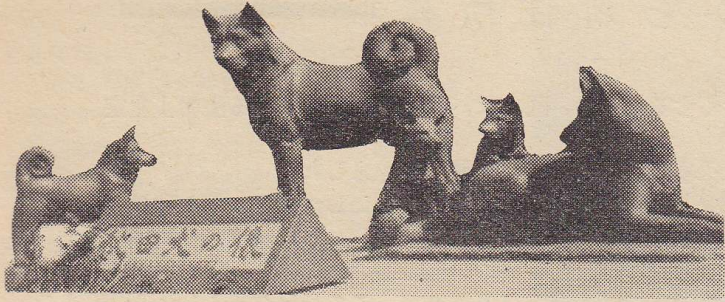


# 広報 おおだて

(102号)

編集と発行 大館市役所



## 公共物をたいせつに

市の建設課ではいま、公共物をたいせつにする運動を進めている。公園などの公共施設は、市民1人1人のものであり、常に美しく整理されていなければならないはず。しかし、中には、施設をこわしたり、クズかごがあっても芝生の上にゴミくずを投げ捨てるという不心得な者もおるようで、市でいくら施設の整備に力を注いでも追いつけない状態です。

大館は、ここに住む人々のお互いの「生活の根拠地」であり、市民共通の郷土でもあります。

郷土を愛し、郷土の発展を願わぬ市民は一人もいないと思います。まちを美しく、明かるく、豊かなものにするためにも、自己の物を大切にする前に、まず、公共物を大切にする心がけをお互いに養なおうではありませんか。

## 夏

## のオアシス

まちの中央を流れる長木川も夏ともなれば子どもたちの天国になる。天気があがるとまち中の子どもたちがワンサとおしかけ、色とりどりの水着姿で、水遊びに、砂遊びに興じている。その姿を見るにつけ、いかにも健康にあふれた。「大館ツ子」の未来像に大きなよこびを感じる。やはり、希望に胸ふくらむ子どもたちだけは大事に育てなければなりません。水死事故から子どもを守ることもその一つです。そのためにも市内の各学校では、父兄を動員して子どもたちの監視に目を光らしている。こうした努力がみのってか、いままでに水による子どもの事故がおきていない、しかし、ゆだんはできません、ちょっとした心のゆるみから、かわいい子どもを水魔からうばい去られることにもなりますので、子どもの水あそびには十分注意し、この夏だけは、悲しいニュースを聞くことのない日々を過したいものです。

